

NEWYORK Smile

ニューヨークグループ社内報「ニューヨーク スマイル」

Contents

- 01 「社長のあいさつ」
- 02 営業本部より
- 03 合同主任会議
- 04 マイク放送研修
- 05 本を読んで感じたこと
- 08 成人式を迎えて
- 12 駐車場スタッフ表彰
- 13 もっとイイ方法はないだろうか?
- 14 新入社員紹介／各種インフォメーション

美しい魂

代表取締役社長 宮永 光人



新年明けましておめでとございませう。皆様とともに元気に平成18年を迎えられたことをうれしく思います。本年も宜しくお願い申し上げます。巷ではインフルエンザが猛威を振るっています。が年末年始大変忙しい中でも体調を大きく崩している方がいないことをうれしく思います。

昨年が皆様にとつてどんな年だったでしょうか。昨年当社は県外から参入してきた同業大手との競争の中で残念ながら国分中央店は閉店しましたが、全社的にはどうにか順調に成長できた年であったと思います。国分中央店のスタッフの皆様には寂しい思いをさせたことと思いますが、当社は本年大きな計画を実行していきますので、閉店の瞬間までお客様への感謝の気持ちで働いたあのときの思いを忘れないでいただきたいと思えます。

さて今回の号では私が社内報の紙面で繰り返し述べています働くことの意義について皆さんと考えてみたいと思

います。私は常日頃「仕事とは人生最大の人間修養の場」であると申しております。人間は生まれた瞬間から本能的に自分自身だけが生きるために、他人のことも自己の生命の維持のためだけに母親の愛情や他人の愛情を受けようと泣き声をだします。それに似た状態は思春期頃まで続くと思えますが、成長するにしたがって他人を思いやる気持ちが育つと同時に、自分だけよければ良いという自己中心的な気持ちもどんどん強くなっていきます。つまり誰でも人間はその一人の心の中にこの二つの相反する心を内包し、その狭間を左右に揺れながら人生を送ることになります。お釈迦様やキリストも人間でしたから、きっとこの思いの狭間で生きてきたことでしょう。

しかし考えてみてください。人間が一人を死を迎えるとき生前手に入れた地位や名譽や財産、贅沢な暮らしを死後の世界に持って行けるでしょうか。これまで誰一人としてそれができた人はいないはず。死後の世界に旅立つとき持つて行けるのは「魂」のみであると思っております。つまり人間が生きていく意味とは、生まれた瞬間より「美しい魂」を手に入れるため、「魂」を磨くためにこの世に生を受けているのだらうと思っております。「魂」を磨くとは自己中心的な欲望とは対極にある、自分に関わりのある人や社会の人々の為に役に立ちたいという気持ちや、自己中心的な欲望だけを追求した人や、周りの人に迷惑をかけてばかりして生きてきた人が「美しい魂」を持つていたとは私には到底思

えません。「美しい魂」を磨くためには、奉仕

活動や柔剣道といった武道や宗教的な修行に専心する方法が古来からあります。しかし私を含めて普通の人は奉仕活動等だけでは生きていけませんから、実社会の中で生活の糧たる収入を得なければならぬのも事実です。ここに私が申し上げる「仕事とは人生最大の人間修養の場」の意味があることをご理解いただけたらと思います。

つまり仕事とは生活の糧を得るといふ自己的な目的を果たしながら、社会の役に立ち「魂」を磨くという目的、その二つの相反する目的を同時に実現できる場であるのです。ただし、いい加減な気持ちで仕事をいくらしても社会やお客様は認めてくれませんし、皆さんもそのような責任感のない人をすばらしい人間性を持った人とは思わないでいましょう。いい加減な気持ちで仕事をするとするのは怠惰の欲望に打ち克てない人だと思われれます。自己の欲を捨て去り、お客様のために仕事をするという真剣な姿勢こそ修行の意味があるのです。私は「それまで人知れず背負ってきた苦勞の重さと果たしてきた責任の重さがその人間の重さになつていき、その重さが人格を磨かせる」と思っています。これは地位や財産を手に入れるよりも私には大切に思えてなりません。

当社は、今年薩摩川内市に2つの大型店を造ります。薩摩川内市の多くのお客様が喜んでいただけるような店を皆さんとともに造りあげてくれることをうれしく思うと同時に、私は一人でも多くの社員が当社で働くことに喜びを見いだせる会社になれるよう私自身に課す気持ちで一年を過ごしていきたいと思います。

歳時記

常務 諸橋 富士雄

南種子町の豆腐店経営、園田さん(32才)が一人でヒラアジ釣りに出かけ、帰りの昼頃、黒い大きな魚影を発見!「キハタだ!!」と水深1.5Mの中へ消費ブロックの上からザブン。羽交い絞めをして引き上げようとしたが、尾を振り抵抗。格闘20分、キハタの頭を陸に向けてと砂浜に乗り上げてきた。体長187cm、重さ81キロ。助けを借り友人5人がかりで隣の港に陸揚げ。切り身になったキハタは100人ほどにおす分けされました。

「捕まそうと本能的に飛び込んだが、自分に向かってくる時は怖かった。飛び込むなんて、からかわれた一南日本新聞の切抜きからですが、キハタを抱きかかると顔笑顔を写っていました。そのキハタグロの大きい事!!

私はめつたに釣りはやらないですが、大物を果敢に仕留めようとする彼のチャレンジ精神に脱帽!!

さあ、新年が明けました、私達もその心意気を見習い、今年1年いかなる難局に対しても積極的に挑戦していきましょう!